

雲の上のまち



広報

ゆすば

11
月号

2025
(令和7年)

No.809



図書館の庭に咲くフジバカマにとまるアサギマダラ

第12回 龍馬脱藩マラソン大会

や、行政機関、学校が協働し、町のPRや地域の活性化につながることを目的として、平成23年度より開催しています。

フルマラソンの部スタート

【参加者】

北は北海道から、南は沖縄県まで954名の方にエントリーいただきました。当日は、869名の方が出走され、841名の方がみごと完走されました。



【前夜祭】

坂本龍馬が国境越え前夜に、一泊して酒を酌み交わしたことから、参加ランナーの相互交流が図られるよう大会前日に前夜祭を行つております。

第12回龍馬脱藩マラソン大会を、10月12日に開催しました。当大会は、日本の夜明けを切り開いた明治維新の志士たちが駆け抜けた「脱藩の道」をコースに取り入れ、地元住民および、関係団体



おもてなしのお料理

【大会当日】

台風23号の接近に伴い、天候の心配をしておりましたが、幸いにも雨風の影響はなく開催することができました。

開会式は空岡則明実行委員長より開会宣言、名誉大会長である吉田尚人町長より歓迎のあいさつがありました。その後、山田哲也高知県観光振興

また、梼原高校ディスカバークラブの津野山神楽、チーム梼原のよさっこ演舞に加え、今年は参加者によるギター弾き語りもあり、会場を盛り上げいただきました。

そして、最後には、婦人会の皆さんと参加者が一緒に梼原音頭を踊り、楽しい雰囲気の中で、翌日に向け意気込みを新たにしました。



前夜祭集合写真



選手宣誓

辞をいただきました。

また、今大会は龍馬生誕190年の記念大会であつたことから、選手宣誓には、龍馬が脱藩した年齢と同世代であり、初めての脱藩・フルマラソンコースに挑戦する高知市鉄野将大さんに選手宣誓をいただき、開会式は終了しました。



エイドで給水(上成)

その後、フル、ハーフ、10キロの順にスタートし、ランナーの皆さんには各エイドや沿道で地域の方々が工夫を凝らした応援や、学生達の元気な声援に励まされながら、坂道の多い厳しいコースを懸命に走っていました。ゴール付近では、梼原高校と梼原学園の生徒たちによる神楽のお囃子が、ランナーたちの背中を押すように響き渡り、最後の力を引き出していました。

表彰式では、各部門3位までの方と、龍馬生誕190年を記念して、各部門の190位の方に表彰状とメダルが授与されました。

また西宮市との友好交流を記念した友好都市特別賞は愛媛県の今西源一さんと、梼原町の片岡定恵さんが受賞されました。

最後になりましたが、多くのボランティアの協力があつたからこそ本大会が開催できました。また、地域の皆様からの温



ゴールでハイタッチ

■ 石河 智子（愛媛県）
■ 前田 涼（愛媛県）
■ 渡邊 隆史（愛媛県）
■ 二宮 歩美（愛媛県）
■ 井上 慶子（愛媛県）

■ ハーフ18歳～49歳の部男子
■ ハーフ18歳～49歳の部女子
■ ハーフ50歳以上の部男子
■ ハーフ50歳以上の部女子

【大会結果】

各部門の優勝者（敬称略）
■ フル18歳～49歳の部男子
■ 上田 隆一（南国市）
■ 古谷 紗弓（愛媛県）
■ 遠藤 紀元（いの町）
■ フル50歳以上の部男子
■ フル18歳～49歳の部女子
■ 上田 隆一（南国市）
■ 古谷 紗弓（愛媛県）
■ 遠藤 紀元（いの町）
■ フル50歳以上の部女子

■ 片上 佳恵（愛媛県）
■ 上田 和富（高島県）
■ 永井 篤至（高知市）
■ 石元 泰徳（土佐市）
■ 片上 佳恵（愛媛県）
■ 上田 和富（高島県）
■ 永井 篤至（高知市）
■ 石元 泰徳（土佐市）
■ 10km 50歳以上の部女子
■ 10km 50歳以上の部男子
■ 山内 沙弥香（愛媛県）
■ 橋村 大志（四万十市）
■ 幾井 正典（高知市）
■ 10km 18歳～49歳の部男子
■ 10km 18歳～49歳の部女子

【ランナーの声】

「初参加でしたが、噂以上にキツさでした。町民の方々の応援や、スタッフさんの気配り心配りに何回も助けられました」「スタート早々の心臓破裂の坂はきつかった。エイドが充実していて、暑いなかぶれる水があるのもよかったです。走った後のおも

弁当もおいしかった。町の皆さんのが総出で頑張ってくれているのが伝わりました。良い大会ですね」「毎年参加しています。かわいいイラストの参加賞Tシャツ、お弁当、学生によるエイドボランティア、ゴール地点の応援、コース途中の沿道住民の皆さんのが応援。毎年最高の大会をありがとうございます」

「ご参加いただきましたランナーの皆さんありがとうございます」「ご参加いただきましたランナーの皆さんありがとうございました。」



フルマラソンの部 表彰式

椿原病院・保健福祉支援センター 30周年記念行事を開催

平成8年3月に町民の心と体を総合的にサポートする施設として開設以来、今年で30周年を迎える椿原病院・保健福祉支援センターは、記念行事を10月25日に開催しました。

午前の部は、血圧や骨密度、生活習慣など健康に関することをテーマに設置したブースを体験していただきました。来場者は健康チェックや相談を通して、自身の健康状態や食生活の大切さについて改めて理解を深められました。子どもたちの参加も多くあり、白衣を着てドクター体験をしたり、エプロン会の振る舞う災害食を試食したり幅広い世代の皆様に参加いただき、笑顔あふれる一日となりました。

午後の部では、椿原病院の元院長で埼玉医科大学教授の内田望氏を講師にお招きして「人生会議を始めよう」と題した講演をいただきました。普段の会話ではなかなか触れにくい「人生の最期（死）」について、埼玉県小鹿野町の健康フェスタで行った入棺体験の話を織り交ぜながら「人生の最後をどう過ごしたいのか、家族や周りの人と話しておくことが大切。きっかけは何で

も良い。そして、どうしてそう思ったのか理由もぜひ聞いて欲しい。人生会議は、元気なうちから。思いは変わることもあるので繰り返し話すことも必要」とお話をいただきました。

繊細なテーマでしたが、内田教授の人柄と楽しいお話により、参加者アンケートでは、「今のうちにこれから生き方を考えておくことは大事だと思った」、「人生の最後は自分で決めたいし、家族と話しておくことが大切だと思った」などたくさんの感想が寄せられました。

今回のイベントを通じて、医療や福祉、健康づくり全てにおいて、町民の皆様と課題を共有しながら、一緒に取り組んでいくことが大事なことであると再認識できる機会となりました。改めて日々よりご理解ご協力をいただいている地域の皆様に感謝申し上げます。

これからも、地域の皆様の笑顔と健康をサポートできるよう、職員一同取り組んでまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

椿原病院・保健福祉課

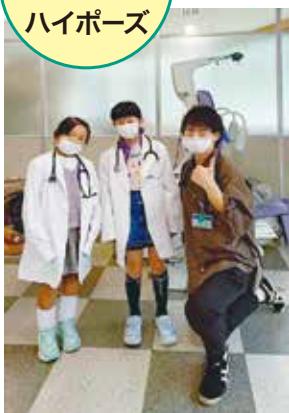
エプロン会の災害食試食会



内田教授による講演会



白衣を着て医師とハイポーズ



ドクター体験の様子



健康クイズを解いている小学生

子育て応援キャラクター るんだと一緒に



健康コーナーの様子

もしものときのために 話してみませんか？

人生会議

厚生労働省では、11月30日を「人生会議の日」とし、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日として普及啓発を行っています。10月25日には樋原病院元院長の内田望先生より、人生会議について講演していただきました。講演会で人生会議について聞かれた方もおられると思いますが、人生会議はどういうもので、どんなことを話すのかについてお伝えしたいと思います。

【人生会議を知っていますか？】

人生会議とは、病気やケガなどで、自分の気持ちを伝えられなくなつたもしものときに備えて、自分の思いや希望を家族や信頼できる人、医療・介護の関係者と話し合つておくことをいいます。

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。命の危険が迫つた状態になると約70%の方が、これから医療やケアなどについて自分で決めたり、人に伝えたりすることができなくなるといわれています。

町内の65歳以上の方に行つた調査では、「医療や介護について、家族と話し合っていない」と答えた人が半数以上であり、その理由として、「話し合う必要性を感じていない」「話し合う

一方で、医療現場では「本人の意思が分からぬ」、「何を話し合つていいか分からない」などの意見があります。

一方で、医療現場では「本人の意思が分からぬ」という理由で、家族だけ決めていかなければならぬ状況になり、苦しい選択を迫られることがあります。判断した後も、「これでよかつたのか」など、自問自答したり後悔したりすることもあり、家族の精神的負担が大きくなります。もし、本人の希望が分かつていれば、家族も「これでよかつた」と納得して支えることができます。また、本人にとっても「自分らしい最期を迎える」安心につながります。人生会議は、自分のためにも、家族のためになる大切な準備といえます。

【人生会議って何を話すの？】

人生会議というと、「終末期の話」や「死に関する話」と思われるがちですが、実はそうではありません。例えば、「どんな暮らしを大切にしたいか」「どんなとき幸せを感じるか」「どんな場所で過ごしたいか」など、日々の生活の中で感じる自分らしさを言葉にすることも人生会議です。それを少しずつ、家族や信頼できる人と共有していくことで、いざというときに家族が迷わずあなたの希望を伝えられるように

きつかけがない」「何を話し合つていいか分からない」などの意見があります。

一方で、医療現場では「本人の意思が分からぬ」という理由で、家族だけ決めていかなければならぬ状況になり、苦しい選択を迫られることがあります。判断した後も、「これでよかつたのか」など、自問自答したり後悔したりすることもあり、家族の精神的負担が大きくなります。もし、本人の希望が分かつていれば、家族も「これでよかつた」と納得して支えることができます。また、本人にとっても「自分らしい最期を迎える」安心につながります。人生会議は、自分のためにも、家族のためになる大切な準備といえます。

【きつかけをつくるタイミング】

人生会議を始めるタイミングに決まりはありません。家族が集まるときに「これからのこと少し話してみようか」と切り出すのもいいでしょう。

また、病気や介護をきっかけに考え始めの方も多いと思いますが、元気なうちに始めておくことで、自分の考えを整理しやすく、家族とともに前向きに話し合えます。「今はまだ元気だから関係ない」と思う人こそ、自分の価値観を見つめ直すチャンスです。

人生の考え方や希望は、年齢や体調、家族の状況によって変わるものです。だからこそ、人生会議は何度でもやり直すことができます。「前はこう思っていたけど、今はこうしたい」と話合いを重ねていくことが大切です。一回で完璧に決める必要はありません。

なります。

話したことは、簡単にメモしておくと安心です。ノートやメッシュージカードなど、どんな形でもかまいません。

また、かかりつけ医やケアマネジャーなどにも伝えておくと、いざというときに自分の希望に沿つた医療や介護を受けやすくなります。例えば、「延命治療をどうしたいか」といった話だけではなく、「季節の花を見たい」「好きな音楽をかけてほしい」など、ささやかな願いも立派な人生会議のテーマです。

大切なのは、形式ではなくあなたの思いを誰かに伝えることです。

【人生会議は未来のために、「今」を大切にすること】

人生会議は、「死」に向き合うための話し合いではなく、「生きること」を見つめるための時間であり、「自分らしく生きるために、これからどうしました。自分が大目にしたいことを考え、伝えることで、残りの人生をより豊かに過ごすことができるのではないか」という想いを誰かに伝えることです。

今を大切に、これから的人生を自分らしく生きるために、一度、家族や信頼できる人と、人生会議を開いてみませんか。

保健福祉課 多世代包括支援係



第12回 椿原町芸術祭開催

10月25日、26日に第12回
椿原町芸術祭を開催しまし
た。

ゆすはら・夢・未来館2階大ホールで、町民作品展及び学校作品展を開催しました。一般の方や、椿原こども園・椿原学園・椿原高校から約680点の力作が展出され、展示を行いました。

25日はゆすはら・夢・未来館1階ロビーで、椿原茶道クラブによるお茶の接待を行いました。

26日には町民ステージをゆすはら座で開催しました。文化協会の各サークルをはじめ、ししまる太鼓、椿原学園音楽部、椿原高校音楽部そして町外ゲストをお招きし、大変賑わったステージ発表となりました。

また、初めての試みとして、町内在住の吉富文さんによる「しまんと新聞ばつぐ作り」を行いました。参



どれにしようかな？（しまんと新聞ばつぐ作り）

加者は、講師の指導を熱心に聞きながら、お気に入りの新聞記事で、オリジナルのしまんと新聞ばつぐを作りました。

芸術祭の開催にあたりご協力いただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。来年度も多くの出展や発表をお待ちしております。



一生懸命のりを塗るよ！

持ち手を作っています！



● 1学年	金賞 二神 涼真 銀賞 秋澤 一凜 銅賞 高見 詩子	● 2学年	金賞 小野川 悠月 銀賞 松山 瑞季 銅賞 今城 暖人
● 3学年	金賞 中越 妃叶 銀賞 立道 成 銅賞 中山 舜	● 4学年	金賞 佐伯 和佳 銀賞 田代 己鈴 銅賞 長田 大藏
● 5学年	金賞 田尾 心花 銀賞 中越 さちの 銅賞 杉原 侑	● 6学年	金賞 那須 秋仁 銀賞 高橋 正宗 銅賞 中越 愛永
● 7学年	金賞 上川 璃心 銀賞 長田 みのり 銅賞 尾野 萌那	● 8学年	金賞 石戸谷 小美 銀賞 森山 一成 銅賞 高山 花和

● 3学年	金賞 中越 斗翔 銀賞 中越 菜月 銅賞 高橋 芽以	● 4学年	金賞 秋澤 蒼佑 銀賞 中越 樹生 銅賞 山本 陽友
-------	----------------------------------	-------	----------------------------------



● 5学年

金賞 西村 葵衣
銀賞 武田 希美
銅賞 中越 春菜

● 6学年

金賞 高橋 優奈
銀賞 高見 琴子
銅賞 森山 旬

● 7学年

金賞 中越 桜空
銀賞 河野 天空
銅賞 中岡 豊平

● 3学年

金賞 吉門 空明来
銀賞 今城 暖人
銅賞 原 希実子

● 2学年

金賞 中越 心風
銀賞 村田 凛
銅賞 二神 涼眞

図画の部



● 5学年

金賞 中越 新太
銀賞 田尾 心花
銅賞 杉原 侑

● 6学年

金賞 西村 美緒
銀賞 高見 琴子
銅賞 木下 悠汰

● 7学年

金賞 上川 璃心
銀賞 山本 ひより
銅賞 津野 優希音

● 8学年

金賞 西村 悠生
銀賞 中越 幸一
銅賞 中越 恋美



町民作品展の様子



町民ステージの様子（話芸クラブ）



町民ステージの様子（梼原学園音楽部）

町民ステージの様子
(ドリーム・須崎市 with ア∞カペラ5・梼原)

令和7年度

『高陵消防連合演習』開催

10月12日、午前9時から津野町の東津野B&G海洋セントラーグラウンドにおいて、高陵消防連合演習（須崎市、中土佐町、津野町、梼原町）が、団員ら約270名の参加により行われました。

今橋正直会長からの訓示（津野消防団長）の後、池田洋光高幡消防組合長（中土佐町長）、池田三男津野町長、森本順也高知県危機管理部消防政策課課長補佐、片岡隆章高知県須崎警察署署長の祝辞の後、選手宣誓が行われ津野消防団の岡崎秀哉部長が日頃の訓練の成果を発揮し全力で競技に臨むと誓いました。

梼原消防団から総勢59名が参加し、教練の部には第3分団、小型ポンプ操法の部には第5分団、ポンプ車操法の部には各分団から要員が出場しました。

教練の部は、指揮者の号令に従い、団員22名が整列や行進を行い動作の機敏性や統一性を競いました。

小型ポンプ操法、ポンプ車操法は令和8年6月28日に行われる高知県消防操法大会への出場権が懸っており、各団共に正確さとスピードを兼ね備えた動きでホースを延ばし、標

的に放水し、日頃の練習で磨き上げた技を披露され、ハイレベルな戦いが繰り広げられました。

● 教練の部

優勝 植原（第3分団）

第3位 中土佐
準優勝 津野

● 小型ポンプ操法の部

（優勝団は県操法大会出場）
優勝 植原（第5分団）

準優勝 中土佐

第3位 津野
準優勝 植原

● ポンプ車操法の部

（優勝団は県操法大会出場）
優勝 植原

第3位 中土佐
準優勝 津野

（優勝団は県操法大会出場）
第3位 中土佐
準優勝 植原



教練の部 優勝



ポンプ車操法の部 優勝

■ 小型ポンプ操法要員

指揮者 団員 川上 政志

1番員 班長 隅田 雄策

2番員 部長 山内 孝信

3番員 班長 宮岡 誠二

補助員 班長 川上 純弥

補助員 班長 川上 純弥

川上 純弥

■ 自動車ポンプ操法要員

指揮者 団員 岩本 翔大

1番員 団員 嶋山 貴至

2番員 班長 中越 有基

3番員 団員 島村 香弥

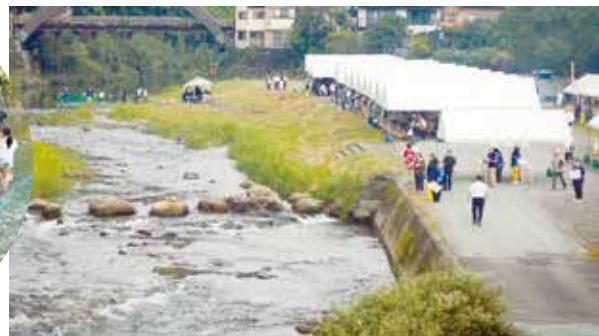
4番員 班長 上川 哲志

補助員 団員 村上 崇

村上 崇



アメゴのつかみ取り



まるかじり大会 会場の様子

9月20日、第36回土佐牛まるかじり大会を梼原川の河川敷にて開催しました。心配された天気も持ちこたえ、町内外から約500人の方に来場いただきました。

土佐和牛の炭火焼きバーベキューに加え、町内ほか出店ブースの商品も好評でした。集落活動センターおちめんが育てたアメゴのつかみどりコーナーでは、200匹を放流したところ、世代を問わらず多くの皆様に楽しんでいただきました。

また、10月4日、5日にはゆすはらグルメまつりを、梼原町総合庁舎駐車場及び周辺を会場に開催しました。

今回は梼原町（13店舗）、高知県内（梼原町を除く15店舗）、愛媛県内（19店舗）の出店がありました。その他、梼原町産の木材を使ったワークショップや、高知家ウォーキングチャレンジ、ゆすはら雲の上観光協会による子ども向けの遊びや、四国カルスト広域連携推進協議会によるEバイク体験などもあり、合計で52店舗の出店となりました。初日は雨の影響もあり来場者は少なめでしたが、翌日曜は心地よい風も吹く天気に恵まれ、延べ約1万2千人の来場者があり、売り切れる店舗が続出する盛況ぶりでした。

土佐牛まるかじり大会 開催 ゆすはらグルメまつり 開催



長い行列ができていました



グルメまつり 会場の賑わい



くるくるショップの様子

推進員の声掛けにより、推進員の自宅や近所の方から預かってきた洋服や生活雑貨など、さまざまなものをお渡しすることができました。

「くるくるショップ」とは、まだ使うことができる不要になつた物を持ち寄り、希望者に無料で持ち帰ってもらう、リユース（再利用）によるごみの減量を目的とした取組です。

梼原町廃棄物減量等推進員連絡協議会では、毎年芸術祭に合わせて「くるくるショップ」を開催しています。

当協議会では、これからも適正なごみの分別方法や出し方、減量方法について、協議や啓発活動に取り組んでまいります。

リユースイベント10月26日 「くるくるショップ」開催

（梼原町商工会会長）
長山 和幸

（梼原町商工会会長）
実行委員会会長

（梼原町商工会会長）
連絡協議会
環境整備課
西川 陽子
生活環境係

- **濡らさない**
野菜の皮や食材の使わないところは、洗う前に切り落とし、直接ごみ箱へ捨てる
- **生ごみの水切りをしましょう**
- **乾燥させる**
捨てる前に濡れている生ごみを乾燥させて水分を飛ばす

皆さまのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

その結果、約59kgの物をごみにせずに、リユースすることできました。



梼原こども園だより



いつも一緒にやってくれる百草園の中平さんに、草花のことを教えてもらひながら散策したり、どんぐりや松ぼっくりなどを拾つたり、木やツルにぶら下がつて遊びました。



5歳児ぞう組が矢崎の森探検に行きました。

矢崎の森探検

利用者さんとタッチ!



こども園のそばにある、梼原町複合福祉施設・YURURU-YUすはらの敬老会に5歳児ぞう組が参加しました。

YURURIーの敬老会

たくさん遊んで、お弁当を食べて、嬉しそうな子ども達でした♪



春と一緒に田植えをした高校生と、収穫をしました。上手に稲刈りができました。



ぞう組の子ども達は、YURURIーの利用者さんに踊りを披露しました。お話を聞いて交流しました。



~梼原こども園わくわく運動会~

各年齢に合わせて取り組みました

0歳児 ひよこ組



こども園
ホームページ



5歳児 ぞう組



2歳児 うさぎ組



3歳児 ぱんだ組



1歳児 りす組



5歳児 ぞう組



第40回 椿原高校文化祭が「青瞬旺華」をテーマに、9月26日・27日に開催されました。2年ぶりの開催で、250名以上の保護者や地域の方々が訪れてくれました。

舞台発表・ステージ発表は、ディスカバークラブによる津野山神楽、総合的



文化祭

9月18日、中学生1日体験入学を開催しました。県内外から中学生60名を含めた約120名が来校し、授業・部活動体験、寄宿舎見学などを通して、椿原高校への理解を深めました。

この体験入学には在校生もサポート役として参加しました。最初は緊張気味だった中学生も、高校生と交流するうちにリラックスし、いろいろな話をしていました。多くの中学生が椿高を志願してくれることを期待します。

文教協会賞受賞

県内高校の優れた文化部活動に贈られる最高賞の文教協会賞を、ディスカバーランドが受賞しました。



キャリア教育講演会

椿原学園8年生、東津野中学2年生、椿高生全員を対象に、10月17日、キャリア教育講演会を行いました。



校内発表は、各ホームが屋台やアイス屋などを企画して軽食や飲み物を販売したり、農業コースが芋天を販売したり、PTAが駄菓子屋をしました。生徒たちは仲間と協力して店を切り盛りし、商品がすぐに売り切れるなど、各店が大繁盛でした。

9月18日、中学生1日体験入学を開催しました。県内外から中学生60名を含めた約120名が来校し、授業・部活動体験、寄宿舎見学などを通して、椿原高校への理解を深めました。

この体験入学には在校生もサポート役として参加しました。最初は緊張気味だった中学生も、高校生と交流するうちにリラックスし、いろいろな話をしていました。多くの中学生が椿高を志願してくれることを期待します。

体験入学

椿高だより



龍馬脱藩マラソン



10月12日の第12回龍馬脱藩マラソン大会では、全校生徒がボランティアとして参加しました。

台風が近づき、開催も危ぶまれまし

たが、当日は秋晴れとなり、生徒たちは放送、エイド、スポンジ、メダル等の係に従事しました。ゴール付近では、神楽のお囃子で盛り上げるとともに、拍手で完走を祝福していました。



長年にわたり地域の伝統芸能の伝承活動を行い、地域活性化に貢献していることなどが評価され、10月20日に受賞式が行われました。



雲の上の図書館だより

YUSUHARA COMMUNITY LIBRARY JOURNAL



0889-65-1900



本をひらく楽しさ 2025秋の読書週間



雲の上の図書館では『木漏れ日で読書』をテーマに、森が出てくるものや関連する本の特集本棚を作成しました。それに合わせて、図書館に隠されたクイズを探し、本のなかの答えを見つけるクイズラリーを開催。全て正解の人には特製の栄えとシールをプレゼント。図書館の中にある様々な本を知るきっかけと本を開く面白さを体験してもらえたようです。図書館には、釣りや野菜作りなど、暮らしの本もたくさんあります。お気軽にご相談ください。

知って、みらいにつなげる

『今と未来がわかる農業』

監修: 堀田和彦

農業の未来はどこへ向かうのか?就農者の減少、耕作放棄地など課題が山積みの現状を、データと共に分析し課題を提示。ドローンなどの最新技術や、新たな取組を紹介することで先の展望を照らし出します。



心と身体のリフレッシュ ダンスワークショップ(10/25開催)



おくめぐみ舞台アーティストとして活動している奥萌さんをお招きし、親子で楽しむリズム体操と初心者でも楽しめるダンスワークショップを開催しました。親子体操では、赤ちゃんから小学生まで音楽に合わせて拍手や足踏みをしながらのびのびと身体を動かしました。小学生以上のダンスワークショップでは、子どもも大人も思いっきり身体を動かしながらダンスの愉しさを感じていました。今後も参加したいと要望もあり大好評で終わりました。

おもしろい!が世界をすぐう?

『わらって、考える! イグ・ノーベル賞すかん』

監修: 吉澤輝由

イグ・ノーベル賞とは、笑って考えさせる研究に贈られる賞。世界中の研究者たちが大マジメに、人間をお休みしてヤギになったり、バナナの皮で滑ったり、一見ムダ、でも実は大きな発展につながる研究を紹介。



ご紹介した本が貸出中の場合は、予約ができます。お気軽に図書館カウンターまでお問い合わせください。

12月の休館日(27日~29日, 31日は18時閉館)
2日, 9日, 16日, 23日, 26日, 30日

1月の休館日(3日は18時閉館)
1日, 2日, 6日, 13日, 20日, 27日, 31日

部 門	各部門の順位	氏 名	記録
アキュラシー アキュラシー ゴールを ディスクが 通過した回数を 競う	4位	中 越 一 吉	1 得点
	4位	藤 原 良 男	5 得点
	4位	倉 橋 義 郎	5 得点
	3位	西 村 賢 一	3 得点
	2位	宮 本 友 和	5 得点
	4位	中 越 真由美	5 得点
	3位	中 越 安 平	4 得点
	4位	藤 原 良 男	15m12cm
ディスタンス ディスクの 飛距離を競う	7位	倉 橋 義 郎	14m48cm
	6位	中 越 一 吉	16m61cm
	4位	西 村 賢 一	18m82cm
	2位	中 越 安 平	24m61cm
	2位	宮 本 友 和	21m19cm
	2位	中 越 真由美	14m16cm



銀メダルを獲得し
ニコニコの安平さん



無事に競技を終えて、
ほっとした様子の倉橋さん

10月5日、高知市総合運動場陸上競技場(りょうまスタジアム)で、第27回高知県障害者スポーツ大会フライングディスク競技が開催されました。この大会は、障がいのある方がスポーツを通じてスポーツの楽しさを体験し、県民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とした大会で、橋原町からは7名の選手が出場されました。当日は天気が心配されましたが、大きな崩れもなく気持ちの良い秋日和で、選手の方々は日頃の練習の成果を存分に発揮され、すばらしい結果を残されました。各部門の上位3位までの方にメダルが贈られました。各選手の参加種目と記録は次の通りです。



梼原町選手団のみなさん

上段：右から倉橋義郎さん、西村賢一さん、
宮本友和さん、下段：右から中越真由美さん、
藤原良男さん、中越安平さん、中越一吉さん

高知県障害者スポーツ大会

GUIDE'S VOICE

歴史が紡ぐご縁に惹かれて――
ガイドとしてのよろこび
ゆすはらであいの会 伊藤一博さん

そのきっかけは、偶然参加した「ガイド養成研修」でした。多くの受講生がいた研修でしたが、最終的に残った人数はわずか。

気づけば成り行きで始まつたガイドのお仕事でしたが、今ではすっかり伊藤さんの大切なライフワークになっています。

ガイドを続ける中での楽しみは、町外から訪れる方々との出会いだと思います。

いろいろな地域から来られるお客様

観光協会だより
GUIDE'S VOICE

歴史が紡ぐご縁に惹かれて――
ガイドとしてのよろこび
ゆすはらでいいの会 伊藤 一博さん

橋原町の魅力をお客様へお伝えす
ました。

実際にガイド
を受けたお客様
からは、「とても
楽しかった!」
「次は友達も連れ
てきますね」と
いった嬉しい声
が寄せられてい
ます。



様とお話をで
き、さまざま
な情報や視点
に触れられる
のが嬉しいで
すね。特に私
は歴史が好き
なので、歴史
に興味のある
お客様が来ら
れると、つい
話が盛り上
がつてしまい
ます」と笑顔

A man wearing a bright yellow safety vest over a dark shirt and a camouflage baseball cap is holding a large, fluffy, light-colored bird chick in his hands. He appears to be examining it closely. In the background, there's a dark wooden structure, possibly a barn or stable, with a window visible.



ゆすはら雲の上観光協会



我が故郷 ゆすはらへ

(上)

今年5月、梼原出身でスウェーデン在住の中越紘詔さんがご家族と梼原に帰省されました。80才代を迎え、最後の帰省になるかもとの気持ちも持たれた中、故郷への思いを綴つていただきました。

中越紘詔さん

1940年生まれ、越知面永野出身。越知面小中、高知高、中央大法学部法律学科卒業後、スウェーデン・ウプサラ大法学部博士課程中退。その後、会社経営（スウェーデン住宅及び建材輸出）。

5月下旬、息子夫婦同伴で8年振りに梼原に帰郷しました。コロナ侵略戦争の影響で帰国を逡巡しているうちに、85歳の高齢に達してしまった次第です。梼原の人達も自然も、やはり優しく私を包み込んでくれました。甥夫妻（中越拓平・あかね）の丁寧な案内のお陰で梼原の現状をこれまで以上に見ることができました。

洗練された素晴らしい図書館、総合庁舎、町の駅、マルシェなど木造建築群は斬新でありながら梼原の地勢・自然環境に調和した佇まいを醸し出していました。更にその源流となつたのが、旧公民館・ゆすはら座ということも知りまし

た。5月下旬、息子夫婦同伴で8年振りに梼原に帰郷しました。コロナ侵略戦争の影響で帰国を逡巡しているうちに、85歳の高齢に達してしまった次第です。梼原の人達も自然も、やはり優しく私を包み込んでくれました。甥夫妻（中越拓平・あかね）の丁寧な案内のお陰で梼原の現状をこれまで以上に見ることができました。

ます。

今回の帰郷は、墓参もさることながら、私のアイデンティティの再確認が目的でした。元来個々の精神に内在するものですが、その根源は私が生を受け、幼年・少年期を過ごした梼原町、墳墓の地永野にあるのだろうと思ひます。

三つ子の魂百までと言ひます。私の原風景の中には、生家から毎日眺めた南前に鎮座するならかな城ヶ畠があつて、目を閉じればそれに重なる穏やかな山並みが彷彿と蘇ってきます。アマゴを手掴みした四万十川源流のせせらぎも聞こえきます。

さて、私が出国したのは1970年12月。スウェーデンに2年滞

在予定が、どう道を踏み違えたのか、半世紀以上もこの国に留まることがあります。スウェーデンは、人口約1066万（225万人にあたる21%はスウェーデン国籍を取得した移民）の小国です。ノーベル賞を授与する国、豊かな福祉国家、外交を最優先する平和国家、国会議員数は男女拮抗、政府の閣僚は男女ほぼ同数、などご存じの方も少なくないと思います。例えば、現保守連合政権の環境大臣はイランからの移民で29歳の女性です。選挙制度は民主主義をとことん追求した完全な比例代表制。死票は最大で4%止まりです。世界のあらゆる国から移民を受け入れていて法的な人種差別は皆無、スウェーデン人と全く同じ権利を有します。

今でこそ豊かな高福祉国家ですが、嘗ては貧乏な農業国で、1800年代から1920年にかけて国民の約4分の1に当たる150万人が北米に移民しているのです。合理が合理として通る国。勤勉且つ真面目。弱者に対する思いやりに富み、それが高福祉、移民受け入れの誘因の一つ。「アレマンスレット」と言う日本の入会権に似

た慣習法があつて、公有地私有地を問わず野生の茸、ベリー、木の実、草花などの自然物をだれでも採取できます。入会権と違うのは、外国人を含む外部の人にも適用される開放的な慣習法の存在です。現に、晚夏から初秋にかけてブルーベリーやコケモモ採りに、タイから大勢の出稼ぎ労働者が入ってきます。

1974年に永住権を取得している私は、その気になれば何時でもこの国の国籍を取得できます。その場合、日本は二重国籍を認めていないので、私の日本国籍は消滅・無効、つまり日本人ではなくなるのです。スウェーデンでは、永住権を取得すれば、国政選挙権がない



息子夫婦達と共に吉田町長を訪問

のを除けば外国籍のままでも本人と権利は全く同等で、法的に一切差別はなく何の支障もありません

からは、国籍取得を進められます。これまで国籍についてさして深く考えないまま、何の痛痒もなく日本人を続けてきたのですが、人生の黄昏時に差し掛かると、結局はこの地に骨を埋めることになると、いう現実を前にやはり迷いは出でます。

日本の急激な人口減少に歯止めが掛かる気配はありません。梼原も私の小中学生頃とは隔世の感があります。当時人口は1万3千人を超えていたのではないでしょうが。当時村内の学校は8校、毎年陸上、相撲、ソフトボールの対校試合や写生会などが開催されたものです。越知面小中学校だけでも、600人以上の生徒がいました。現在町全体の人口は3千人余まで激減し、小中学校は統合1校のみ、高齢率も40%を越えたと聞きます。正に数十年後の日本全体の状況を先取りしていると言われる所以です。とは言え、今回の帰郷で梼原に衰頬疲弊は感じられず、寧ろある種の活氣すら実感しました。

（下）に続く

息子夫婦達と共に吉田町長を訪問

1974年に永住権を取得している私は、その気になれば何時でもこの国の国籍を取得できます。その場合、日本は二重国籍を認めていないので、私の日本国籍は消滅・無効、つまり日本人ではなくなるのです。スウェーデンでは、永住権を取得すれば、国政選挙権がない

毎年11月30日は「年金の日」です

11月30日（いいみらい）は、国民お一人おひとりに「ねんきんネット」等を活用して、ご自身の年金記録や公的年金の受給見込み額を確認していただき、高齢期の生活設計に思いを巡らして、いたぐる「年金の日」となっています。

「ねんきんネット」は年金記録や年金見込み額を確認できるサービスです。国民年金の加入月数や納付状況等の最新の記録をパソコンやスマートフォンから手軽に確認できます。

【ねんきんネットのQRコード】



https://www.nenkin.go.jp/n_net/

詳しくは
こちらから

12月の行事予定

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 9日(火) 人権相談・行政相談(10:00~15:00) | 24日(水) 植原高校2学期終業式 |
| 13日(土) 大越粗大ゴミ受入日・環境整備デイ | 25日(木) 植原学園2学期終業式 |
| 20日(土) 植原町交通安全の日 | 27日(土) 消防団年末警戒パトロール(30日まで) |

※行事予定は変更となる可能性がありますが、ご了承ください。

12月の保健福祉課行事予定

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 1日(月) げらげら家族会 | 11日(木) 越知面デイサービス友の会 |
| 3日(水) 松原サテライトデイサービス | 四万川いきいき交流会 |
| 4日(木) 四万川宅老所 | 東区宅老「えくぼ」 |
| 5日(金) 初瀬いきいきふれあい広場
ウォーキング教室 | 12日(金) エプロン会再研修 |
| 10日(水) 愛育相談 | 16日(火) 男性の料理教室 |
| | 18日(木) 四万川宅老所 |
| | 19日(金) 東区いきいきふれあい広場 |
| | 23日(火) |

月曜日～金曜日 子育て世代包括支援センター(支援センター1階)
 ※妊娠や子育てに関する相談がありましたら、気軽にいでください。
 (電話でも構いません。☎65-1170までお願いします。)



川畠真理子心理カウンセラーの相談日(月2日)……22日(月)、23日(火)

※相談希望の方は、子育て世代包括支援センター ☎65-1170までお願いします。

※行事予定は変更となる可能性がありますのでご了承ください。

西村 故西村昭雄氏逝去に伴う
宗格 様 (愛媛県)
松本 君恵 様 (竹の森)
【その他のご寄付(香典返し)】
【広報へのご寄付】

匿名希望の方
351名
松下 和樹 様
沢田 元郎 様
鈴木 季郎 様
西谷 修一 様
馬場 勝樹 様
辻 剛久 様
西森 麻季 様
竹崎 喜子 様
上垣 亨 様
塚本 匡士 様
岡本 駿士 様
松久保 祐輝 様
祐亮 様



このほど、次の方々からご寄付をいただきました。町ではその趣旨を十分に尊重し、有効に活用させていただきます。
 紙面をもってお礼とご報告申し上げます。

寄付のお礼

●おくやみ

住所	死亡者名	年齢	死亡年月日
六丁	松本 房子	78	令和7年10月10日
六丁	西村 善晴	85	令和7年10月13日

●ご結婚

届出時の住所	夫婦氏名	婚姻日
大蔵谷 大蔵谷	夫 掛橋 勝司 妻 中崎 愛子	令和7年10月3日

※個人情報につき掲載の了解をいただいた方を掲載しています。

柚子の木俳句会

文芸



柩出でし静寂の中秋の雲

西村由利子

薪を割る八十齢の音となり

西森誠子

一条の光菜虫の穴と知る

中平忠雄

柿剥ぎて御詠歌あとの笑い声

中越郁子

ランナーの背に残酷の文字残暑

渡辺瑞枝

熊襲うのニュースを耳に柿をはぐ

吉田敬子

団栗につい手を伸ばす山路かな

中越昌一

遠雷や久しい上司夢に立つ

広瀬卓雄

「団栗について手を伸ばす山路かな」
今年は東北の方で団栗が不足し、熊が人家側に出没しているようです。このあたりでは、熊の生息はなく団栗不足も感じません。山路を歩いていて団栗を見ると、条件反射のように手を伸ばし手に取ってしまいます。古代採取時代からのDNAかも。

「人の影踏んで踊りの輪の進む」
小学校の校庭に櫓が組まれ、揃いの浴衣を着て子供たちは法被で踊りの輪に加わりました。よさこい鳴子おどりや椿原音頭を繰り返し踊り続けました。昭和の高原まつりの懐かしい想い出です。

杉の子俳句会

文芸

人の影踏んで踊りの輪の進む

大崎みなと

バラ銭で雑魚買いにゆく秋の暮

西村蓉子

清流に卵抱えて鮎下る

影浦鉄心

天高し理想と背丈縮みおり

明神伊佐子

彼岸花水路のそばで揺れており

前川淳

四十万の川の流れや秋の水

氏原陽子

文鎮の半紙めくれてそぞろ寒

内野純子

駆け抜ける脱藩道や菊香る

西村幸枝

石橋を叩き損ねし賜日和

久岡智子

コスモスを揺らして過ぐるキッキンカー

掛橋初子

くちびるは誠と嘘を貝割れ菜

川田早苗

梼原町のいろいろなサイトをご紹介

ゆすはら散歩

奥四十万時間
インスタグラム



ゆすはらキャンプ場
インスタグラム



ゆすはら雲の上観光協会
Instagram



四国カルスト広域連携推進協議会
Instagram



ライダーズイン雲の上
Instagram



梼原町公式ホームページ

<https://www.town.yusuhara.lg.jp/>



わが町の人びとの動き

世帯数 1,668(10月末) / 1,664(9月末)

人口 3,021(10月末) / 3,023(9月末)

出生	死亡	転入等	転出等
0	3	4	3

神在居千枚田 石積みワークショップ開催

国選定重要文化的景観「四万十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田」の重要な構成要素である神在居の千枚田の石積の保全に向け、11月3日・4日に石積みワークショップを開催しました。町では令和5年度から神在居集落の営農環境整備に向けた実態調査等を実施しており、今回のワークショップは今後の石積み整備に向けての試験的な取組として、石積み技術の継承をしながら、日本各地の石積みの修復を行っている一般社団法人石積み学校の金子玲氏を講師に迎え行いました。

ワークショップには、県内外から8名が参加し、金子講師から石積みの仕組や石の積み方などを教わった後、作業に取り掛かりました。現在、耕作が行われていない田んぼをお借りし、崩れかけていた石積みを解体した後、理論に基づきながら石を積み上げていきました。2日間の作業で高さ1メートル余り、幅10メートル程の修復を行いました。完成後に、金子講師による講評や手直しがあり、参加者からは「どの石を積めば良いのか選ぶのが難しかった」「人によって積み方が違うので、それを見るのもおもしろかった」という感想がありました。



完成した石積み



作業の様子

生涯学習課

広報委員のつぶやき

NHKの朝ドラ『あんぱん』をきっかけに、やなせたかさんの名言を知り、そのいくつもが心に響いています。

「人生は喜ばせごっこ」

「じつ」 という言葉が、子供の小さな遊びを想像させ、押しつけがましくなくて気に入っています。

これこそ日常の喜ばせごっこだなあと感じるのは樋原の町のご近所づきあいです。畑の野菜や手作りのお惣菜のおすそ分け、困ったときに声を掛け合い助け合う。そんなやりとりから、私は樋原に移り住んで周りの人を大切にする優しさを学んできました。年齢を重ねるにつれ、そうした身近な心づかいが、時には大変なこともある山の暮らしに安心感をもたらしてくれています。都会と違って、こうでなければ田舎の暮らしは成り立たないのかもしれません。

「それぞれが自分にできることをやる」

私の母は94歳。認知症も進み体も弱り、あちこちの施設や病院で入退院を繰り返しながらも、ようやく今は樋原の老人ホームに落ち着き、車椅子で生活できるようになりました。面会に行くとお茶も出してあげられないねと母は私を気遣い、困惑しながらも笑顔を見せてくれます。もう何もできなくなつた母ですが、笑顔を見せててくれる。それだけで私にとってはありがたく、私を元気してくれます。「目の前にいる人を喜ばせる」「一瞬を一生懸命生きる」等々、やなせさんの言葉を、ほんとにそうだなど、ひとつひとつかみしめています。

「広報ゆすはら」の表紙写真を募集しています。

応募方法等の詳細は役場総務課(☎65-1111)までお問合せください。